研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-310		21-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol Consumption and Age-related Macular Degeneration: A Systematic Review and Dose-response Meta-analysis

アルコール摂取と加齢黄斑変性症のリスク：システマティックレビューと用量反応メタアナリシス

執筆者

Zhang J, Mitsuhashi T, Matsuo T, Yorifuji T, Hamada J, Liu Y.

掲載誌

Curr Eye Res. 2021 Dec;46(12):1900-1907. doi: 10.1080/02713683.2021.1942070.

キーワード	PMID
アルコール摂取, 加齢黄斑変性症,用量反応関係,メタアナリシス, 観察研究	34115943

要　旨

目的：アルコール摂取と加齢黄斑変性症（AMD）の関連について、メタアナリシスの手法によりシステマティックレビュー、用量反応メタアナリシスを行った。

方法：Preferred Reporting Items for Systematic Review and Meta-Analyses（PRISMA）のガイドラインに従って、系統的レビューとメタ分析を行った。AMD の初期型と後期型で分けて飲酒カテゴリー別メタ解析と用量反応メタ解析の両方について実施した。固定効果モデルを用いて、統合した効果推定値、95%信頼区間(CI)を算出した。

結果：290 の論文から条件に合致した 7 件の研究を解析対象とした。初期型および後期型 AMD の症例数はそれぞれ 114,550 例中 4,566 例、93,351 例中 440 例であった。非飲酒者または機会飲酒者と比較して、初期型 AMD の統合効果予測値は、中等度飲酒者(≥12– 24 g/day)で 1.19［95%CI 1.03-1.37］、多量飲酒者(≥24 g/day)で 1.24［1.10-1.39］であったが軽度飲酒者（0-12g/day）では 0.98[0.90-1.06]で統計学的に有意でなかった。一方で、後期 AMD のプール効果推定値については、軽度飲酒者で 1.03［0.79-1.33］、中等度飲酒者で 1.13［0.83-1.55］、および多量飲酒者で 0.98［0.63-1.53］でいずれも統計学的に有意ではなかった。アルコール摂取と初期型 AMD リスクとの間には線形用量反応関係（$p < 0.05$）がみられ、アルコール摂取量が 10g/日増加した場合の統合効果推定値は 1.14（1.08-1.21）であった。

結論：
中等度および多量のアルコール摂取は、初期型 AMD のリスクを増加させるが、後期型のリスクは増加させなかった。アルコール摂取と初期型の関連は線形用量反応関係を示した。